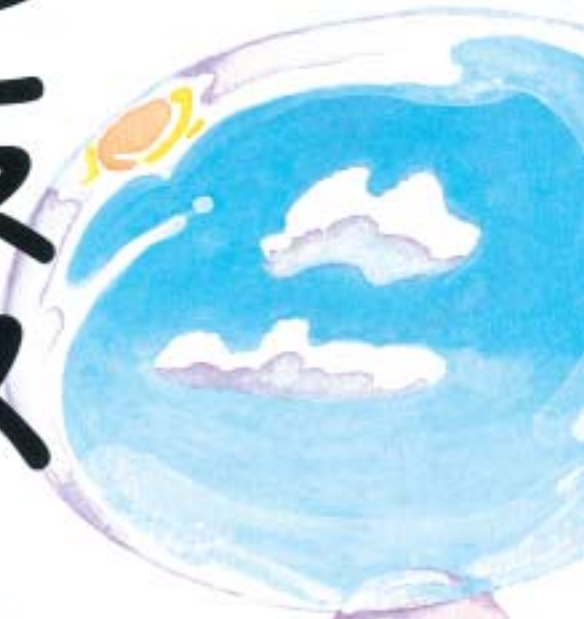
NORMALIZATION FOR NEXT SOCIETY

ハピネス城西

地域精神医療誌・フレンドシップ
企画編集:NOVA出版



フレンドシップインタビュー

社会を反映する子どもたち・・・精神科医師に求められるもの

牛島定信

VOL. 2 2005

「シャボン玉」

病院機能評価を受審して

総務部長　中道憲一

理事長から受審の意向が示され、準備としての業務計画、プロジェクトの編成を経て実践と会議の反復、進捗管理の徹底等あっという間の1年間でした。訪問審査ですぐに認定を獲得出来るとは思ってはいなかったものの、全員の持てる能力を出し切った充足感を感じたのは私だけではないと思います。

今回の認定に至る経験は単に評価機構の審査項目のみならず、他に多くの多様な示唆を受けるものとなりました。独断と偏見を承知でいくつか整理すれば以下の通りです。

①開院以来、初めて第三者の客観的な検証評価を受けたことです。その結果、過去連綿と続いてきた病院運営の諸施策・習慣・考え方や、あるべき座標等がある程度方向修正されました。
②認定獲得に強い決意で臨んだ理事長のリーダーシップにより、医師集団としての「医局」が活性化したことです。病院機能評価は「医局活性度評価」といっても過言ではなく、医師達の全分野への指導性の発揮が決定的要因といえます。
③病院組織は医療従事者としての資格を有する専門家集団で運営されていますが、ともすれば縦割りが強く、個々のグループの事なかれ主義がはびこりやすい風土があり、当院もその例にもれない状況でした。院外の専門家や外部指導者によるインパクトが強力に作用し、役職員全員の参加意識が醸成され、見事な団結力を発揮しました。
④そのことは精神科病院としての存在意義、医療従事者の社会的使命感を喚起し、全職員が最後まで手をゆるめることなく大量の業務をこなしたのです。
⑤各業務を見直し、評価項目に照らし合わせて取り組む過程の中で、コンプライアンスの検証、患者サイドに立った視点、チーム医療の構築や情報管理としての概念管理に基づいた施策が提案され取り入れられました。

列挙すればまだいくつかありますが、以上のような取り組みの推移の中で、新たな「城西病院組織」が再生されていきました。

現在、認定を獲得した満足はあるものの、むしろ本来の精神科医療の観点からいえばスタート地点に立ち返った思いです。当院の目指す方向が一段と具体化されて提示され、やるべきことの意義目的が全役職員に徹底されてきており、急性期病棟の立ち上げを中心とする在院期間短縮の今年度業務計画は、機能評価認定の真の当院の実力を証明するものとなるのではないでしょうか。

認定証
Certificate of Accreditation

ハピネス城西 ～あなたが主役～

～城西病院スタッフ紹介～

●総務

当病院にお越しいただいた皆様に、まず真っ先にお目にかかるのが私達です。病院の顔であり、第一印象を左右する重要な部署であることを認識し、親切・丁寧な対応をこころがけています。お気づきの点がありましたら、遠慮なく外来の意見箱にご要望やご意見をお寄せください。

総務

●外来・訪問看護

精神科医療は、従来の入院中心から外来中心へと変化しようとしており、精神科外来の果たす役割はより大きくなっています。外来モットーとして、温かみのある雰囲気づくりと思いやりある対応を心を掲げ、日々頑張っています。訪問看護師は現在22名ですが、在宅で生活する患者様の所へ伺い、様々な支援を行っています。一人ひとりを大切に援助していけるよう今後も頑張ります。

外来・訪問看護

喫茶・売店

クラーク

●クラーク

私達は主に、外来や病棟で患者様の診療情報（治療・処置・検査・薬剤等）の入力をしています。例えば、医師が処方した薬剤を、私達がパソコンで入力すると、院内LANシステムにより、すばやく調剤や請求がされるようになっています。病棟では小遣い残高を確認するなど、患者様とも身近な関わりがある他、文書作成や統計処理などで色々な部署と関わります。病院が円滑に機能するために潤滑油的役割を担えるよう心がけています。

●喫茶・売店

外来の喫茶・売店コーナーは、クラークが交代で担当しています。喫茶は入院・外来患者様をはじめ、外部の方にもやすらぎの場として利用していただいております。売店ではできるだけ品揃えにも趣向をこらし、皆様のご要望にお応えできるよう努力しています。診察の待ち時間などに、どうぞお気軽にご利用下さい。